

旭区の自然—わんどの移り変わり—

「わんど」は、淀川の両岸に見られる池や湾状の地形のことです。明治初期に行われた淀川大改修の際に設けられた水制(船がとおれるよう、水流を中央部に集めるため、両岸から垂直に築かれた石積み)が元となり、その水制の間に自然に土砂が溜まってできたもので、特に旭区内に多く見られます。大きさは学校のグラウンド程度、深さも最深部で2m前後でそれほど大きなものではありません。わんどは生物の宝庫でもあり、淀川に生息する魚は約60種といわれ、全国でもっとも魚類の多い河川です。淀川水系で絶滅したとみられていたイタセンパラが赤川鉄橋下流左岸わんどでみつきり、1974(昭和49)年3月に国の天然記念物に指定されました。鳥類はオオヨシキリ、ヒバリなど水辺の鳥を中心に177種類の鳥が観察され、昆虫も約500種類など、そのほとんどが、河川敷のわんどに生息しています。しかし、このわんどが河川改修や河川敷公園づくりで、つぎつぎ姿を消してゆき(1970年には、約500箇所あったものが、1984年には、65箇所)生物の生息が危ぶまれてきたことより、「人工わんど」の建設も始められています。

『あさひまちがたり』大阪市旭区役所企画総務課 2001 *ID
0010140229

『旭区史』大阪都市協会編集 旭区創設五十周年記念事業実施委員会 1983 *ID 0070035195

『淀川かわあるき』淀川ガイドブック編集委員会編集 読売連合広告社 2008 *ID 0011600214

『ぶらり探訪旭の見どころ・知りどころ』大阪市旭区役所 2006 *ID 0011374601

『淀川-教材資料-』大阪・淀川教材研究会 2003 *ID 0010590430

『淀川-自然と歴史-』鉄川精〔ほか〕著 松籟社 1979 ID 0000253630

この調べかたガイドでは、旭区をテーマに4つのトピックを選び出し、それについて調べるのに役立つ情報源を、わかりやすく紹介しています。

ID 大阪市立図書館の「書誌ID」(お問い合わせの際にお伝えください)

旭図書館に所蔵しているものは、IDの前に*をつけて表示しています。(※の無いものも所蔵館から取り寄せできます。)

紹介した資料やホームページなどはほんの一例です。図書館ホームページ「おおさか資料室」や各館のページにも「よくある質問」や区に関する資料のリストを掲載しています。より詳しくお知りになりたいときは、図書館のカウンターへご相談ください。図書館司書がお手伝いします。

調べかたガイド: 各区版

旭区の調べかた

旭区の史跡・名勝・建築

—森小路遺跡—

旭区を知る—千林商店街—

旭区の民俗・文化—平田の渡し—

旭区の自然—わんどの移り変わり—



大阪市立旭図書館

〒535-0003 大阪市旭区中宮1-11-14

TEL 06-6955-0307

<http://www.oml.city.osaka.lg.jp>

開館時間 火～金曜日(第3木曜日は休館)

10:00～19:00

土・日曜日、祝・休日、7/21～8/31の月曜日

10:00～17:00

休館日 ●月曜日、第3木曜日(祝・休日は開館)

7/21～8/31の月曜日は開館

●年末年始 ●蔵書点検期間

旭区の調べかた

Ver. 2 2014. 08改訂

旭区の史跡・名勝・建築―森小路遺跡―

森小路遺跡は、新森中央公園を中心に半径 300m の範囲に広がる弥生時代中期から古墳時代にかけての集落遺跡です。発見された当時は、市内最低平地遺跡(標高 2.8m)として注目されました。1931(昭和 6)年 5 月、土地区画整理事業中に新森 2 丁目から清水 1 丁目にかけて発見された遺跡で、石包丁、石斧、石槍、石錐などのほか、弥生式土器、須恵器などが多数発掘され、その土器から弥生中期前葉の遺跡と推定されました。現在、新森中央公園内に大阪市顕彰史跡を示す「森小路遺跡」の碑が建てられていますが、当時この地は淀川の沖積作用によってできた河内潟の三角州の一部であったと推測されています。

なお、旭区民センター内にある郷土資料室には、遺跡で発見された出土品の一部が展示されています。

『旭区史』大阪都市協会編 旭区創設五十周年記念事業実施委員会 1983 *ID 0070035195

『新修大阪市史 1 巻』新修大阪市史編集委員会編 大阪市 1988 *ID 0000342129

『新修大阪市史 史料編 1 巻 考古資料編』大阪市史編集所編 大阪市 2004 *ID 0010691597

『なにわ考古学散歩』大阪市文化財協会編 学生社 2007 *ID 0011551653

『大阪史跡散歩-大阪市内』高橋敬蔵著 大阪市立婦人会館友の会 1977 *ID 0070095886

『大阪の歴史と風土』宮本又次著 毎日放送 *ID 0000253664

『歴史の散歩道』大阪市土木技術協会 1994 *ID 0000394150

旭区を知る―千林商店街―

千林商店街の地域は、1910(明治 43)年 4 月 15 日京阪電軌鉄道が開通して千林駅ができ、商店の数も増え、大正年代の後半より人口が増加し、商業地域へと発展しました。1931(昭和 6)年、市電守口線が開通、国道一号線も完成し、同年京阪電鉄の軌道敷の移動に伴い千林駅も移転、駅と国道一号線を結ぶ街路の商店街を促進し、これが現在の千林商店街となりました。

戦後の千林商店街については、『パノラマウオーク大阪の商店街 上』に千林商店街の項目があり、1955(昭和 30)年以降の千林商店街が簡潔にまとめられています。

『旭区史』大阪市都市協会編 旭区創設五十周年記念事業実施委員会 1981 *ID 0070035195

『元気のある商店街の形成』石村真一著 東方出版 2004 *ID 0010711613

『パノラマウオーク大阪の商店街 上』大阪市商業振興企画編 大阪市経済局 1998 *ID 0000684575

大阪府商店街振興組合連合会ホームページ
<http://www.mydo.or.jp/street/063.htm>

旭区の民俗・文化―^{へいた}平田の渡し―

平田の渡しは、1676(延宝 4)年頃、現在の東淀川区豊里と旭区太子橋を結ぶ個人経営の渡し舟として発足しました。「平田」の名の由来については、渡守(わたしもり)の平太が経営にあたったからだとか、大坂町奉行から認可を受けて手広く渡船業を営んだ土豪澤田佐平太の名から取ったものではないかといわれていますが、渡しのあった地名(西成郡平太村)から来たとも考えられています。1907(明治 40)年に府営となり、当時の渡し賃はおとな 2 銭、こども 1 銭、牛馬 4 銭で、1 日の利用客は約 100 人ほどでした。1929(昭和 14)年に豊里村が大阪市に編入されたのに伴い市営となり無料になりました。戦後、周辺の市街地化で利用者が増え、20 人乗りの手漕ぎ船から、1960(昭和 35)年には発動機船を就航させるに至りました。しかし 1970(昭和 45)年 3 月豊里大橋の完成により、淀川最後の渡しとなった平田の渡しも 290 余年の歴史を閉じました。現在東淀川区と旭区の両岸に平田の渡し跡碑が建てられています。

『淀川流域の伝承』三善貞司著 大阪市淀川区役所 2004 *ID 0010805369

『大阪市渡船場マップ』大阪市建設局渡船事務所 2000 *ID 0000818246

『旭区史』大阪都市協会編 旭区創設五十周年記念事業実施委員会 1983 *ID 0070035195

『大阪史蹟辞典』三善貞司編 清文堂出版 1986 *ID 0000214926

『角川日本地名大辞典 27 大阪府』角川書店 1983 *ID 0000184865

『なにわ橋づくし』露の五郎著 朝日新聞社 1988 ID 0000243163

